

赤羽根地域まちづくりワークショップ実施報告書

1 目的

現在、赤羽根地域における公共施設の再編として、「赤羽根市民センターの窓口機能」及び「赤羽根図書館での図書サービス」について、施設の複合化による機能の維持を検討しています。このワークショップは、公共施設を利用する市民の皆様から、「施設の複合化、求められる機能やサービス」などについて、具体的な意見や提案をいただき、市民参加で検討を進めるために開催したものです。

2 ワークショップの概要

参加者：公募により、自主的に参加された市民の方々

開催日：令和6年8月24日(土)13:30～15:30

開催場所：赤羽根市民センター 3階会議室

参加者数：27人(10代～80代)

実施方法：「赤羽根地域公共施設の再編～地域に求められる市民窓口・図書館機能サービスを考える」をテーマに、5つのグループに分けて話し合いを実施。

3 ワークショップの結果

グループに分かれて話し合った結果、大きく分けると①「集いの空間・居場所づくり」、②「個性ある図書館づくり」、③「防災」の3つに分類されたため、主な内容を以下にまとめる。

①「集いの空間・居場所づくり」

- ・ 親子、学生、女性、高齢者など、様々な市民が自由で気軽に集える空間や居場所。
- ・ 高齢者、若者、子ども(親子)が、ゆっくり過ごせるスペースや機能(大型スクリーン等)
- ・ 静かすぎずに、勉強で話ができるフリースペース、魅力ある機能・設備
- ・ 会議の他、多目的に使える部屋・スペース
- ・ 楽器、演劇の練習やカラオケができる防音設備、映画(DVD)が数人で見れる場所
- ・ 市民館ではできないことも可能となるような、制約が少ない施設としての位置づけ。

②「個性ある図書館」

- ・ 従来の静かな図書館に捉われない施設
- ・ 図書館と市民センター窓口の一体化。(図書館窓口＝市民窓口)

③「防災」

- ・ 災害時の有用性の高い用途(場所)を確保
- ・ 地震や巨大台風等の大災害を見据えて、食料の備蓄庫や避難所等
- ・ 旧赤羽根町地域の防災拠点となる施設を希望